

「Society5.0」と子ども・若者の学習権保障

「融解する公教育」への**対抗軸**を探る

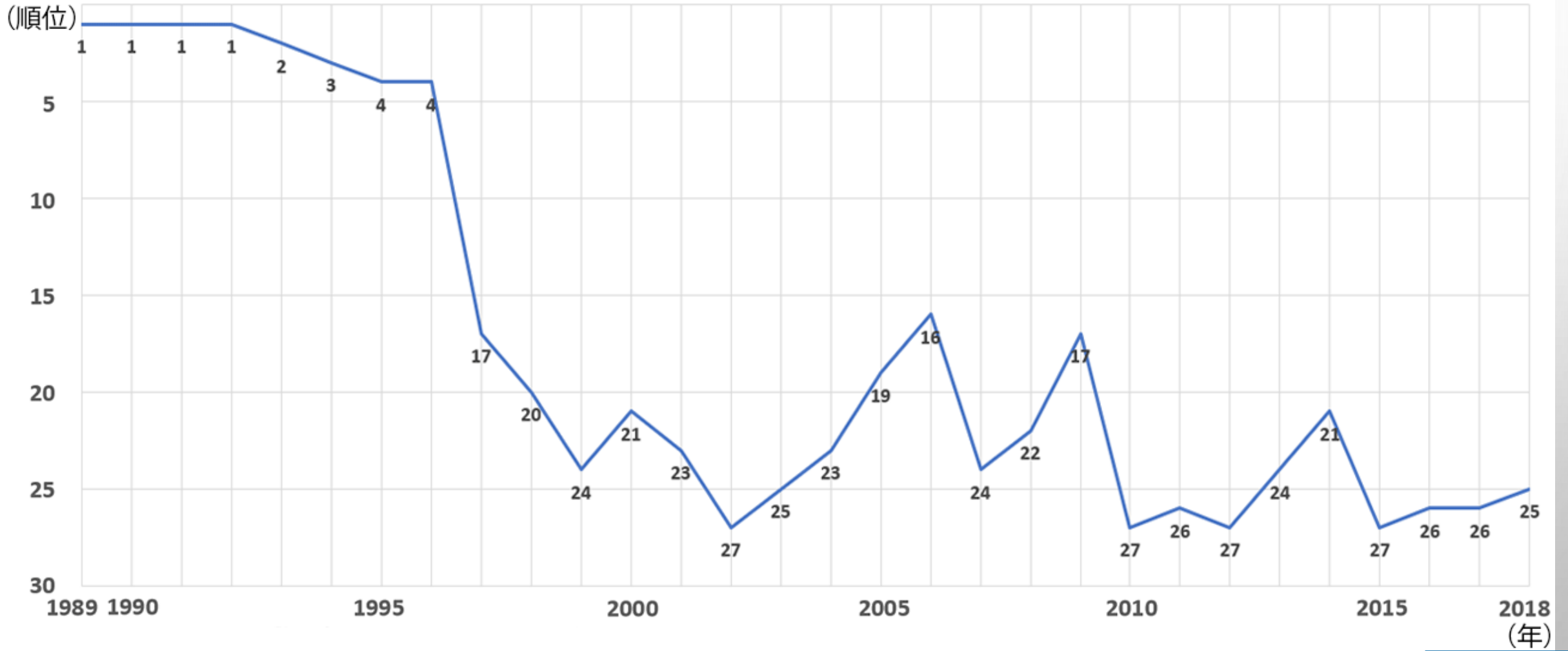
児美川 孝一郎（法政大学）

komikawa@hosei.ac.jp



1. 政策の「迷走」は，なぜ生じるのか？

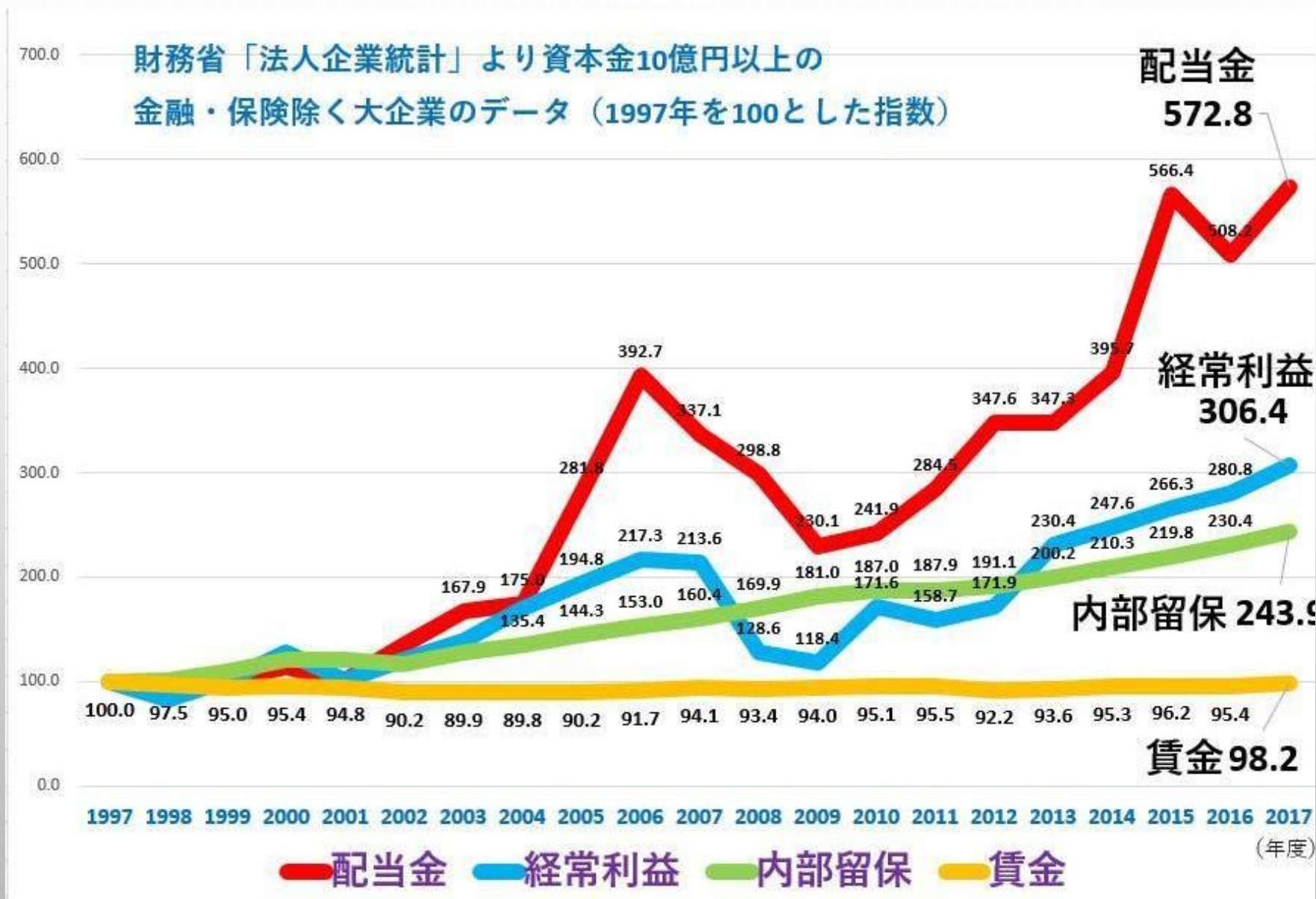
産業界の危機感



2019年
30位

IMD「国際競争力年鑑」における日本の順位

アベノミクスの大失敗



- **「失われた30年」**（バブル崩壊後の日本経済の失調）

+

- **アベノミクスの大失敗**（大企業に手厚く，個人所得を減らし，社会保障等の負担を増やす）



- 経済状態はいっこうに良ならず，**格差拡大**や**社会不安**が増大



- 教育を，**大企業とそれを支援する国づくり**に貢献できる**「人材」**の育成の場にしたい

+

- 教育を，**企業の利潤追求の場となる市場**へと開放したい

保守，国権派の危機意識



1993

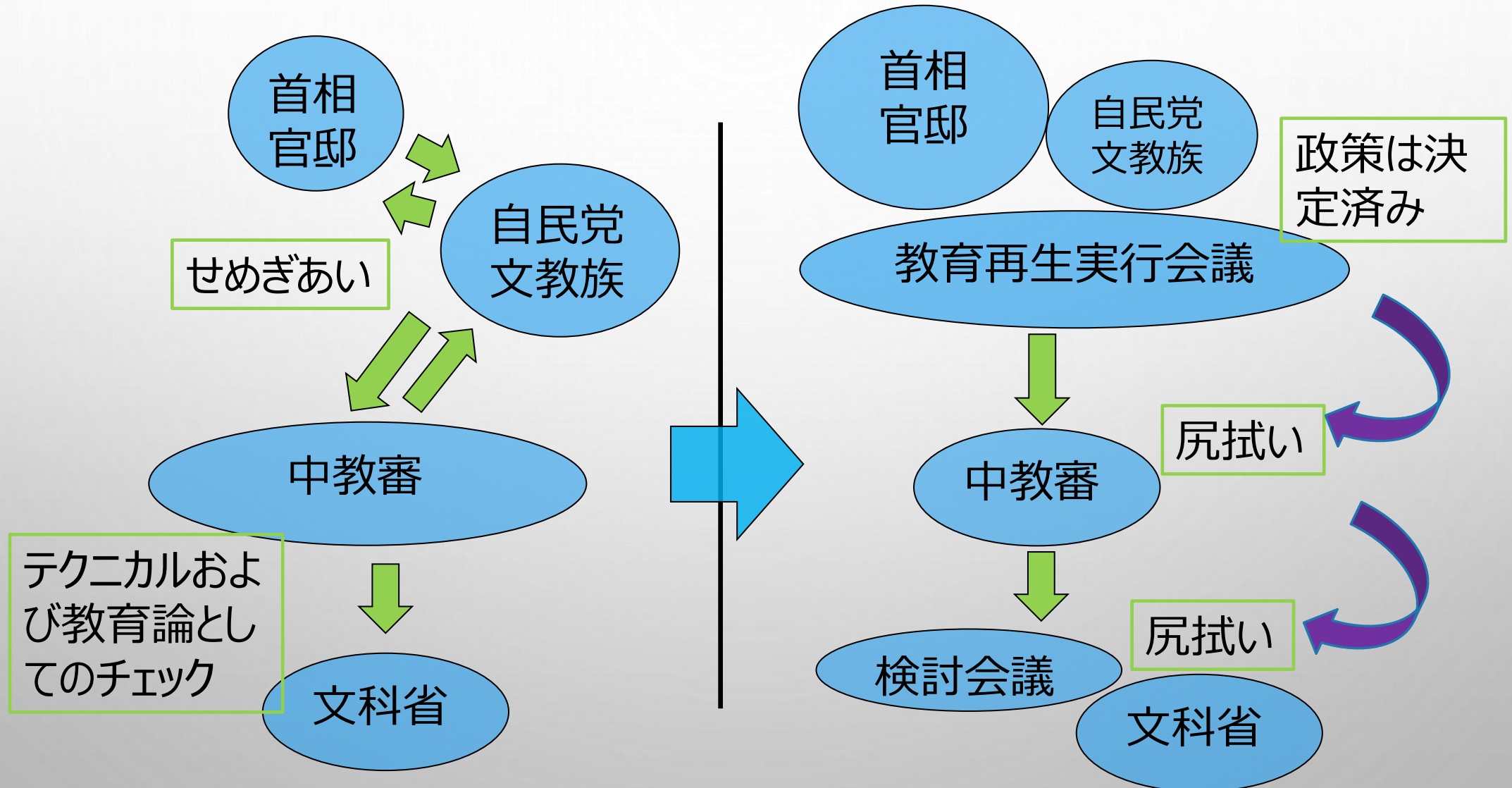


1995

巻き返しに「成功」



国家戦略としての教育



教育再生実行会議の提言

- 【第十一次提言】 **教育のICT化, 高校改革**
- 【第十次提言】 家庭, 地域の教育力 (2017年6月)
- 【第九次提言】 特別ニーズ教育 (2016年5月)

- 【第八次提言】 教育財源 (2015年7月)
- 【第七次提言】 **教員養成・採用・研修** (2015年5月)
- 【第六次提言】 **不登校支援** (2015年3月)

- 【第五次提言】 **学制改革** (2014年7月)

- 【第四次提言】 **高大接続改革** (2013年10月)
- 【第三次提言】 **大学教育改革** (2013年5月)
- 【第二次提言】 **教育委員会**制度 (2013年4月)
- 【第一次提言】 いじめ問題, **道徳の教科化** (2013年2月)

中心は空っぽ

- 通常，トップに権限が集中すると，**独裁的ではあれ，「統一的」な戦略・政策**が打ち出されるはず

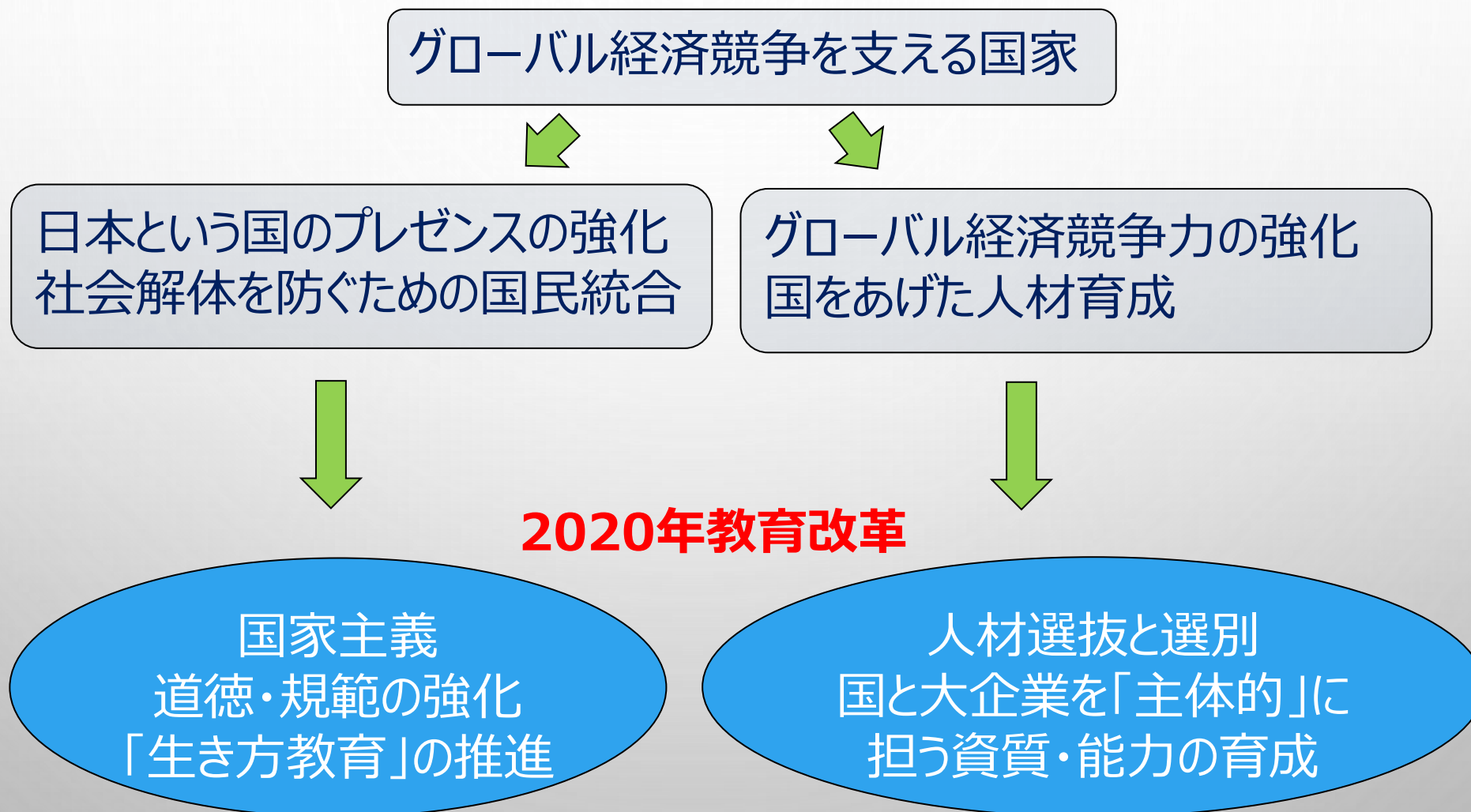


- ところが，現在の体制は，そうなっていない！
- 官僚機構も，自らの**権益の拡大**に走る（経済産業省）か，**保身（生き残り）**に奔走するだけ（文科省）
- チェック機能（司法，マスコミ，労働・社会運動・・・）もまともに機能しない



- **「破滅」への階段**をのぼっている？

瞬間的な「均衡」？——2020年教育改革



新たな「迷走」へ？——2030年教育改革(?)

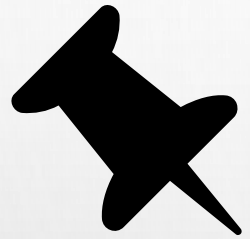
Society5.0という名の
ユートピア/ディストピア

産業界の欲望

国家主義
道徳・規範の強化
「生き方教育」の推進

人材選抜と選別
国と大企業を「主体的」に
担う資質・能力の育成

この2つの課題を、「くち溶かさ」れ、ICT/AI化
された公教育でいかにやり抜くの？



2. Society5.0とは, 何者か?

新たな社会
"Society 5.0"



Society 1.0 狩猟



Society 2.0 農耕



Society 4.0 情報



Society 3.0 工業



IoT, AIを駆使した超スマート社会？ 社会課題を解決？

キックオフ

【2015】 **教育ICT議員連盟**

- 文科省がもともと掲げていたのは、**教育の情報化**（情報教育の充実，教科教育でのICT活用，校務のICT化）

【2016.4】 **第5期科学技術基本計画**

- 用語としての「**Society5.0**」の登場
- ドイツの「**Industry4.0**」を後追いしつつ，新味を出したい

【2017.3～18.3】 **新学習指導要領**

- 間にあわなかった？ 体系が崩れるのを予感した？
- 部分的に，小学校での**プログラミング教育**，高校での**情報科**の強化，**理数科（STEM教育）**

経済界の欲望の膨張

【2016.4】 **経団連**「新たな経済社会の実現に向けて—『Society 5.0』の深化による経済社会の革新」

【2017.6】 **未来投資戦略2017**

- **アベノミクス**との融合, 産業政策から未来社会構想へ
- 教育, 人材育成の強調

【2017.12】 **自民党Edtech議員連盟**

【2018.11】 **経団連**「Society 5.0 –ともに創造する未来」

【2019.4】 **経済同友会**「自ら学び力を育てる初等・中等教育の実現に向けて」

勝敗が見えている(?)競争

- 【2018.6】 **文科省**「Society5.0に向けた人材育成—社会が変わる，学びが変わる」
- 【2018.6】 **経産省**「『未来の教室』とEdtech研究会 第1次提言」
 - 実証事業へ
- 【2018.11】 **文科省**「新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて—柴山・学びの革新プラン」
- 【2019.6】 **文科省**「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」
- 【2019.6】 **経産省**「『未来の教室』ビジョン 『未来の教室』とEdtech研究会 第2次提言」

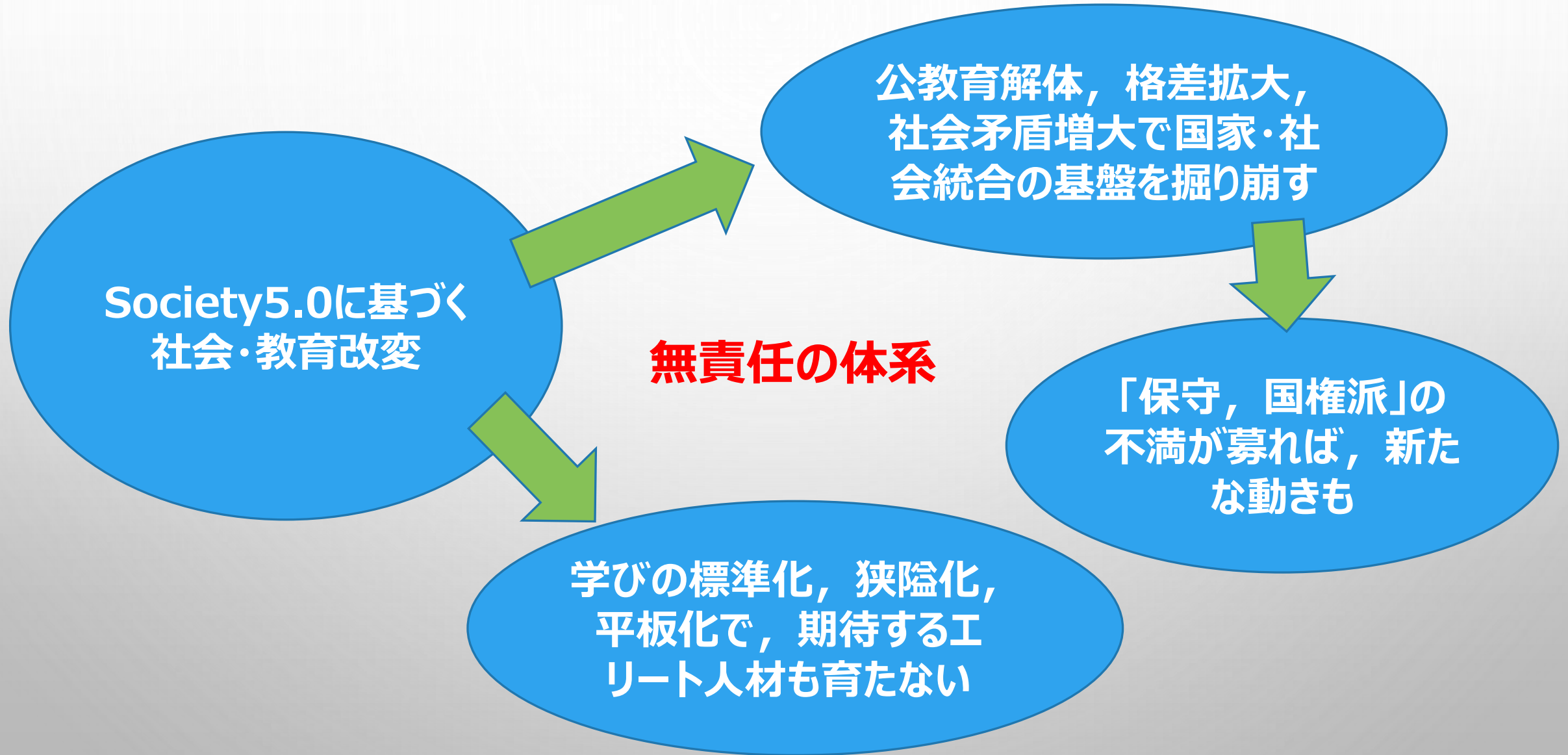
具体的な政策へ

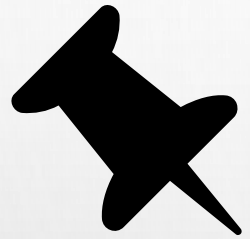
- 【2019.4】 文科大臣が**中教審**に諮問「新しい時代の初等中等教育の在り方」
- 【2019.5】 **教育再生実行会議**「第11次提言」
- 経産省は、2018.6以降、**実証事業**を継続
- 中教審では、「新しい時代の初等中等教育の在り方**特別部会**」「新しい時代の高等学校教育の在り方**ワーキンググループ**」が審議中



3. 「迷走」の見取り図

「破滅」への階段





4. 「改革」の波動Ⅰ——高大接続改革 から新学習指導要領へ

高校教育改革から「高大接続改革」へ

《参考》 「コア」を構成する資質・能力（イメージ）

コアを構成する資質・能力（イメージ）

生徒が高等学校教育を通じて身に付けるべきもの

確かな学力

ア 基礎的・基本的な知識・技能

説明する力、議論する力

イ 基礎的・基本的な知識・技能
を活用して課題を解決する力
(思考力・判断力・表現力等)

批判的、合理的に考える力
【創造力、構想力】

ウ 主体的に学習に取り組む
意欲・態度

社会・職業への円滑な
移行に必要な力

市民性

【自己理解・自己管理能力】

- 社会の発展に寄与する態度を養うために必要な「公共心」や「倫理観」
- 「職業観・労働観」 「主体的行動力」 「人間関係形成力」
社会的責任を担い得る倫理的能力
社会の一員として参画し貢献する意識・態度

- 社会奉仕の精神、他者への思いやり

- 健康の保持増進のための実践力

豊かな心

健やかな体

A 筆記試験や実技試験等による客観的な評価の対象としやすいもの

B A以外のもの

「高大接続改革」とは何だったのか

- そもそもが「床屋談義」？ 「一点刻み」だめ？「人物評価」大事？
- 入試をいじることで、高校教育と大学教育を変えようとする（= **一体的改革**） **ねらいそのものが本末転倒**
- **競争圧力を活用**しようとする政策である以上、日本の教育の「過度に競争的な性格」（国連「子どもの権利委員会」による日本政府への再三の勧告）は改めない
- **「はじめに工程表ありき」**で、無理と無茶を押し通す！



- 結果として、**「大学入学共通テスト」**は、当初の構想から大幅にトーンダウンしたうえに、問題だらけ——英語外部試験，記述式問題・採点・・
- 教科の学習の本来の豊かさを損ね、「新学習指導要領」的に標準化，平板化してしまう危険性

- 各大学の個別入試——「**主体性・多様性・協働性**」を評価しろと言われるが・・
- **調査書**の扱いを含めて、悩ましすぎる（高校での**e-ポートフォリオ**導入は、いったい何なのか？）
- 文科省が「**競争的資金**」等で、各大学に入試改革を強引に迫ってくるだろうことが、大いなる憂鬱

- 「**高校生のための学びの基礎診断**」は、民間事業者に実施・運営が任されるという「暴挙」。
- 「当面は」、**AO・推薦入試、高卒の就職試験**には使わないと言っているが・・

3教科	(株)学研アソシエ	基礎力測定診断 ベーシックコース	●	
	(株)ベネッセコーポレーション	進路マップ 基礎力診断テスト	●	
		進路マップ 実力診断テスト		●
		スタディーサポート α タイプ、 β タイプ、 θ タイプ		●
		スタディープログラム		●
		ベネッセ 総合学力テスト		●
	(株)リクルートマーケティングパートナーズ	スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～	●	
		スタディサプリ 高1・高2 学びの活用力診断～スタンダード～		●

※1 各教科を別冊の学習内容の充実度合いを測定するテストを指します。

結局、高大接続改革とは何だったのか？

- 当初は、**産業界に役立つエリート人材の選抜・育成**のために、①**全体の底上げ**を図りつつ（質保証を強めつつ）、②**エリート選抜のための実効的な入試改革**を行い、③あわよくば、**高校教育と大学教育の刷新**をねらう、という目的
- 結果としては、**政策的な「脅し」**としては機能したが、入試改革としては、うまく機能しそうにない
- むしろ、**民間事業者を公教育に導き入れる地ならし**として、ブルドーザーの役割を見事に果たした？

新しい学習指導要領

- 「**どんな力をつけるか**」の議論が先行 →「**何を学ぶか**」「**どのように学ぶか**」へ
- 中教審の教育課程部会では、「教育課程企画特別部会」が先行 →半年後に教科別の部会。要するに、**資質・能力**が、**教育内容**を決め、**教育方法**（アクティブ・ラーニング）を必然化
- だからこそ、高校においては、**新教科・科目**のオンパレード。同時に、国語科に典型的に見られるような変質
- 実際に資質・能力が身についたかどうかを点検するための「**学習評価**」の充実
- 教育課程の実施と点検を改善につなげるPDCAサイクルを回すために、「**カリキュラム・マネジメント**」

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない*

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

*高校教育については、これまで事実的知識の暗記が大学入学選抜で問われることが標準になっており

高等学校の教科・科目構成について

(科目構成等に変更があるものを抜粋)



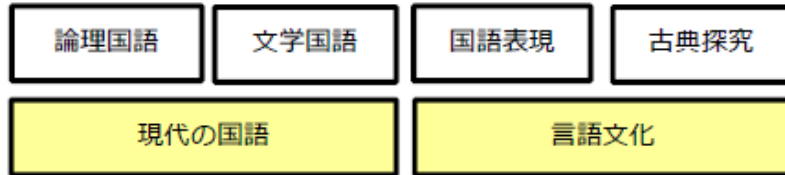
…共通必修



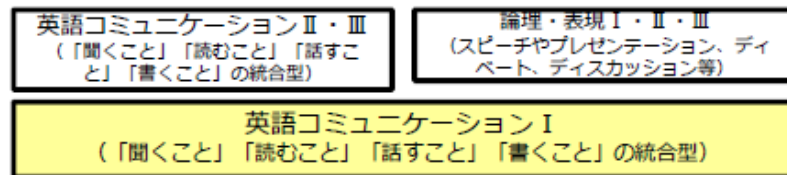
…選択必修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

国語科

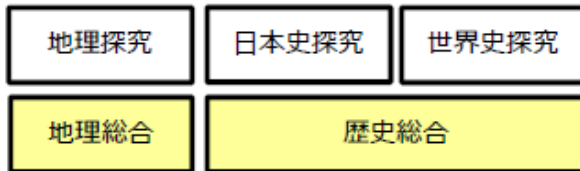


外国語科

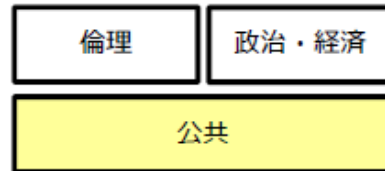


※英語力調査の結果やC E Iのレベル、高校生の多様習ニーズへの対応などもえ検討。

地理歴史科



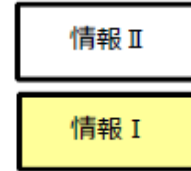
公民科



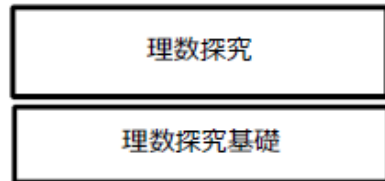
家庭科



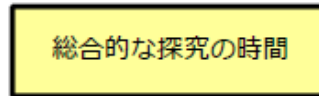
情報科



理数科

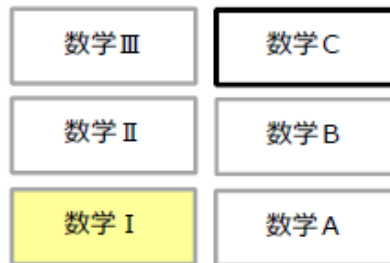


総合的な探究の時間

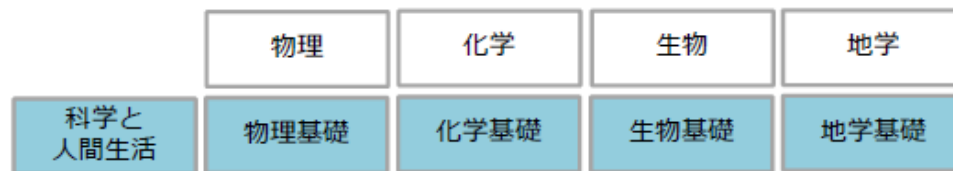


※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

数学科



理科



新学習指導要領の問題性 (1)

相変わらずの詰め込み主義

- 「資質・能力」を強調し、「主体的・対話的で深い学び」を喧伝するわりには、**教育内容の精選は図られず** →小学校では、時間割のパンク。高校でも、地歴科・公民科に必修科目が3つ
- 要するに、**矛盾は、学校と教師にしわ寄せ**？

学校と教師に対する管理・統制のさらなる強化

- 「教育内容」だけではなく、「教育方法」も「評価」も。そして、教育活動全体の「マネジメント」も、**評価と統制**の対象に

新学習指導要領の問題性 (2)

格差の拡大を容認

- 十分な条件整備なき「アクティブ・ラーニング」は、**生徒間の格差**を広げる。→「エリート層の選抜と育成のために、全体を巻き込む（混乱は度外視）」という体制と平行
- 学校制度の**実質的な「複線化」**ともリンク？

「資質・能力」論の偏向

- 想定されている「資質・能力」は、中立的なものではない。例えば、**政府見解には従順に従う「思考力・判断力」、批判的リテラシー**の欠如、「知識基盤社会」という名目での産業界への奉仕

新学習指導要領の問題性 (3)

学校教育全体の「道德化」 (= 生き方教育化)

- 高校における道德教育の強化。「道德教育の全体計画」「**道德教育推進教師**」。「**公共**」「**倫理**」と「**特別活動**」が、道德の「中核的な指導の場面」
- 各教科における学びの「**生き方教育**」化
- すべての学びが、生徒が「**どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか**」にまでせり上がることが求められる
- キャリア教育についての規定（第1章「総則」第5款1(3)）
- 「生徒が、**学ぶことと自己の将来とのつながり**を見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、**特別活動を要として各教科等の特質に応じて**、キャリア教育の充実を図ること。」

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

新学習指導要領の問題性 (4)

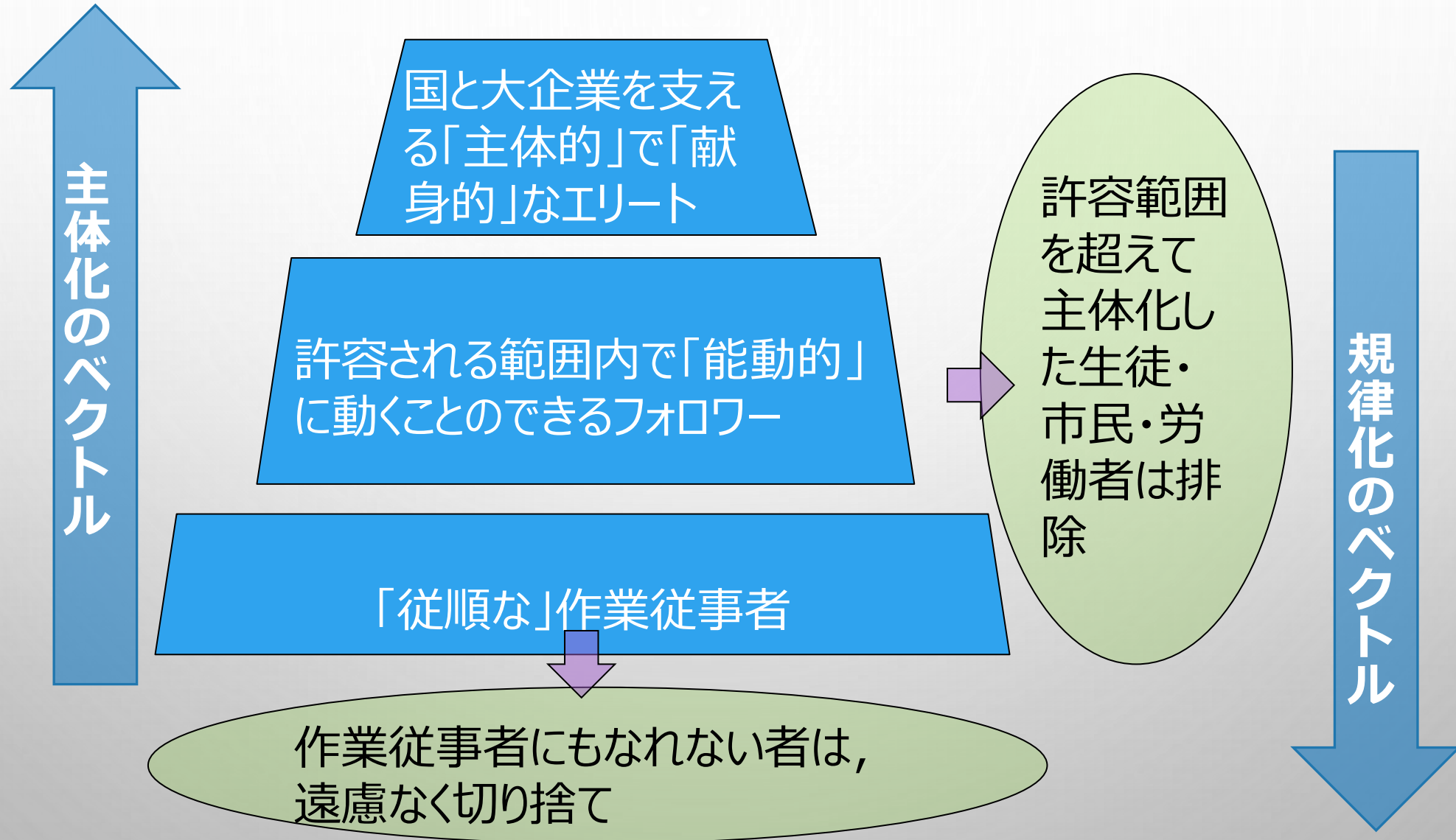
「産業主義」の貫徹

- 英語科における「英語4技能」などの**「グローバル人材」**育成の路線
- 国語科，地理総合，情報科などにおける**「論理的思考」「情報処理」**の能力重視
- 理数科という名の**「STEM教育」**
(Science, Technology, Engineering, Mathematics)

必要な条件整備の欠如

- 新学習指導要領の求める教育を行うためには，教職員定数の改善，少人数クラスの実現，等々の**教育条件整備**が不可欠なはず
- にもかかわらず，条件整備は行わずに，すべて**学校現場に丸投げ**
- 大きな**しわ寄せ**が行くのは，**学力的に厳しい生徒，家庭環境の厳しい生徒，障害を持つ生徒**など

「育てたい人間像」の構図



結局、新学習指導要領とは何だったのか？

- 「**国家主義、道徳・生き方教育**」という土台を固めつつ、「**産業界に奉仕できるエリート人材の育成**」を図るという目的の政策としては、一つの「到達点」
- それなりの研究者を巻き込んだだけあって、「作品」としては一定レベル？
- しかし、まだ「**移行期間**」なのに、「**働き方改革**」の**ブレーキ**はかかるし、**Society5.0教育の構想**では、すでにして「骨抜き」と「食いちぎり」が進む？
- もちろん、教育委員会レベルではぐいぐい押し付けてくるはずなので、しわ寄せはすべて学校現場へ
- **もうひとつの「破滅」への階段？** →教員のなり手がなくなる？



5. 「改革」の波動Ⅱ——Society5.0 から公教育の「融解」へ

文科省「Society 5.0に向けた人材育成」(2018.6)

＜求められる人材
像、学びの在り方＞

＜現状・課題等＞

＜取り組むべき政策の方向性＞

学びの在り方の
変革

共通して求め
られる力の育
成

新たな社会を
牽引する人材
の育成

【すべての学びの段階】

- ・基盤的な学力を確実に定着させながら、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びが不十分。

【小・中学校】

- ・OECD/PISAでも高い到達水準。
- ・他方で、家庭環境、情報環境の変化のなかで、文章や情報の意味を理解し思考する読解力に課題との指摘。
- ・貧困の連鎖を断ち切り、すべての子供達にSociety5.0時代に求められる基礎的な力を確実に習得させる必要。

【高等学校】

- ・普通科7割(80万人)・専門学科等3割(30万人)。
- ・普通科は文系7割(50万人)といった実態があり、多くの生徒は第2学年以降、文系・理系に分かれ、特定の教科については十分に学習しない傾向。
※例えば普通科全体のうち「物理」履修者は2割(14万人)
- ・学年にとらわれない多様な学び(高等教育機関や産業界等との連携)の可能性。

【高等学校卒業から社会人】

- ・四年制大学は、人・社系5割(30万人)、理工系2割(12万人)、保健系1割、教育・芸術系等2割。
※諸外国は、理工系にドイツ約4割、フィンランド・韓国等約3割
- ・教育におけるSTEAMやデザイン思考の必要性。
※STEAM=Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics

I 「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習の機会と場の提供

II 基礎的読解力、数学的思考力などの基盤的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得

III 文理分断からの脱却

AI等の先端技術が教育にもたらすもの ⇒ **学びの在り方の変革**へ

(例) ・スタディ・ログ等の把握・分析による学習計画や学習コンテンツの提示

・スタディ・ログ蓄積によって精度を高めた学習支援(学習状況に応じたコンテンツ提供、学習環境マッチング等)

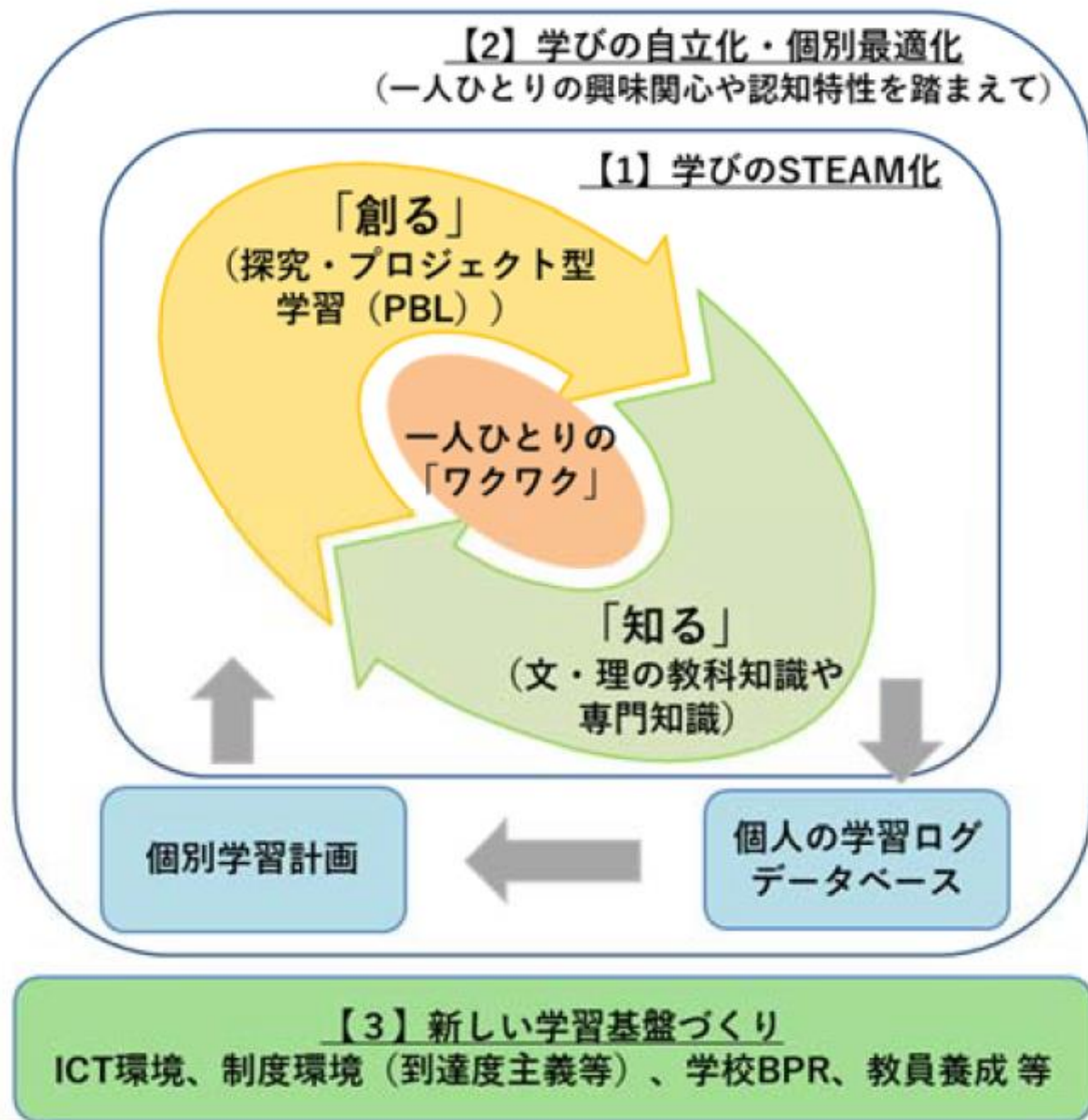
学校が変わる。学びが変わる。 ⇒ Society5.0における学校(「学び」の時代)へ

- ・一斉一律授業の学校 → 読解力など基盤的な学力を確実に習得させつつ、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場へ
- ・同一学年集団の学習 → 同一学年に加え、学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習の拡大
- ・学校の教室での学習 → 大学、研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設等も活用した多様な学習プログラム

主導権は経産省？

- 経産省「『**未来の教室**』と**Edtech**研究会 第1次提言」(2018.6) 第2次提言「『未来の教室』ビジョン」(2019.6)
- 2018年度より、公募型の「実証事業」を展開 (企業と学校のコラボ)
- ICT活用による教科学習の「**個別最適化**」→浮いた時間を主体的な**探究的な学び**に
- 教科学習や探究的な学びは、学校の教室空間で行われる必要はない。**公教育も民間教育もフラットな関係**となり、**社会全体が「教室」**となる
- 「未来の教室」においては、**学習者が自らの学び方をデザイン**する
- 従来型の「学校のかたち」は大きく変容し、**学力、学年、教科、時間数、卒業等の概念は、希釈化**されていく

「未来の教室」が目指す姿



「未来の教室」ビジョン (2019.6)

Business process re-engineering
(業務・組織・戦略の再構築)

2019年度「未来の教室」実証事業の全体像

①モデル校

様々な学校種において、「未来の教室」のコンセプトを具現化。「創る」と「知る」のサイクルを有機的に回すことにより、学習者の学習意欲/効果が向上することを示す。

長野県 坂城高校	<ul style="list-style-type: none"> マイナビ×トモノカイ すららネット NTTドコモ①
武蔵野大学 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ライフイズテック IGS① Z会×atamaplus
千代田区立 稲町中学校	<ul style="list-style-type: none"> JTB① COMPASS
茨城県立 浅羽北小学校	<ul style="list-style-type: none"> STEAM Sports Laboratory① 凸版印刷
福山市立 城東中学校	<ul style="list-style-type: none"> 学研プラス① 異才発掘プロジェクトROCKET NTTドコモ②

④個別学習計画

個別学習計画に基づいた到達度主義授業を実現し、それが有用であることのエビデンスを示す。

- スプラックス (学校内)
- SOMA (学校外)
- 城南進学研究社 (校内アリースクール)

②STEAM Library

「未来の教室」で目指すSTEAMコンテンツの雛形を開発・汎用化し、次年度のライブラリー構築に備える。

加えて、実証まで行い、狙った効果が得られることを示す。

更に、次年度以降、良質なコンテンツが自己増殖/展開していくための仕掛けとして企業・研究者・教員によるアイデアソンを実施する。

<コンテンツ開発>

- IGS②(MaaS)
- カタバ(校則改革)
- 向川ドワンゴ(機械学習)
- 学研プラス②(音楽×AIプログラミング)
- JTB②(観光・気象ビッグデータ)
- Sports STEAM Lab.②(スポーツ)
- TOKUSHIMA雪花菜工房(洗滌解消)
- ベジタリア(スマート農業)

<アイデアソン>

- キャリアリンク

③リカレントSTEAM

STEAM人材を育成する課題解決型研修サービスを開発し、狙った効果が得られることを示す。加えて、これらサービスが、次年度以降、自走・展開していくことを目指す。

- RCF
- キャブラン×パソナ
- Ridlover①

⑤その他

学校の抱える部活動の課題を踏まえた新たなサービスを開発し、狙った効果が得られることを示す。また、今後必要となる教員の専門性を提示し、能力を育成できる研修サービスの開発を行う。加えて、これらサービスが、次年度以降、自走・展開していくことを目指す。

・教員研修・

- 活用教育財団
- 教育と探求社
- タクトピア
- Barbara Pool
- ベネッセ
- Ridlover②

・部活サポート・

- 住友商事

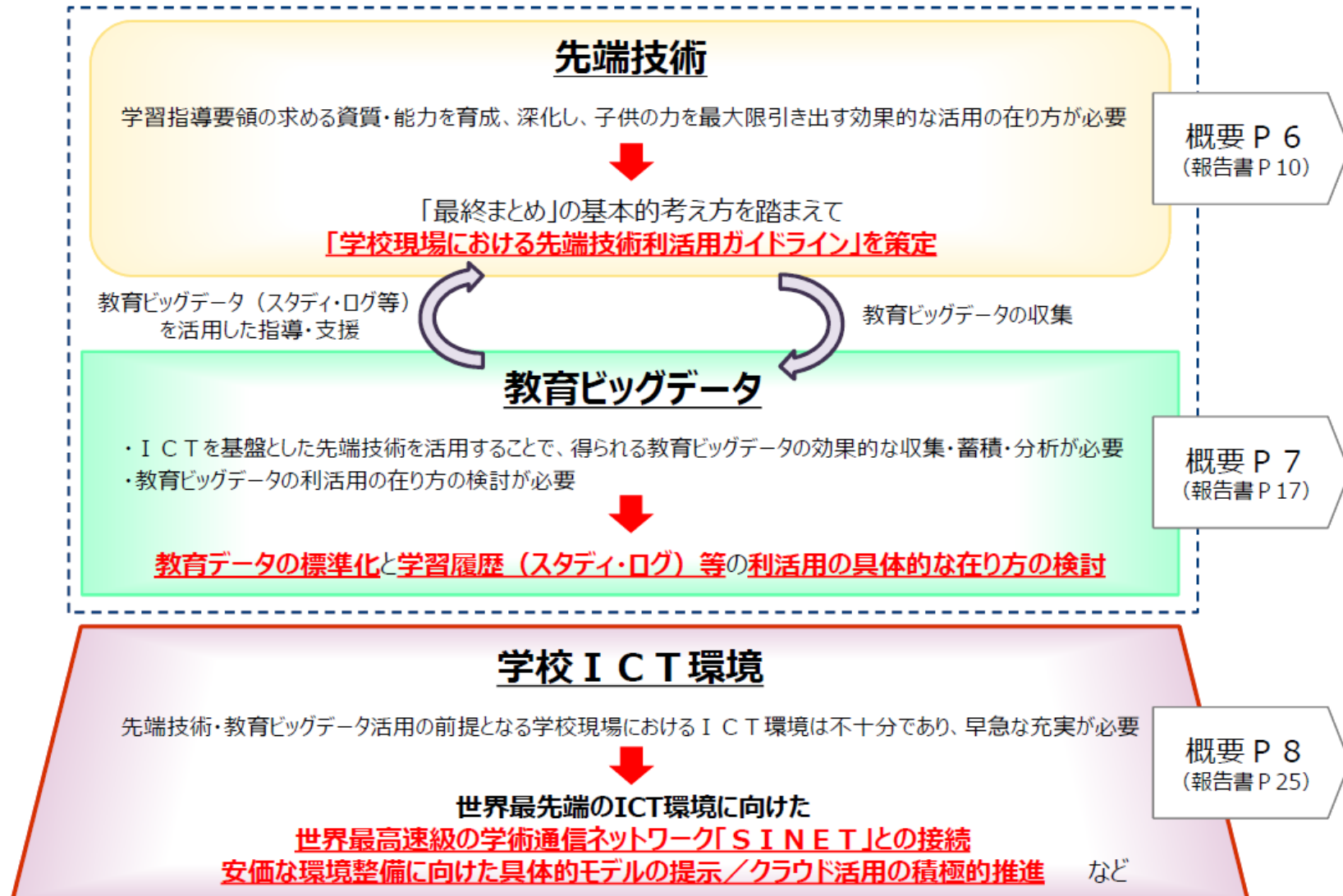


(公募テーマⅠ、Ⅱ)

(公募テーマⅢ、Ⅳ)

文科省「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」(2019.6)

先端技術・教育ビッグデータの効果的な活用とICT環境の整備について取組むべき方策 (全体像)



Society5.0時代の到来

求められる能力

- 飛躍的な知の発見・創造など新たな社会を牽引する能力
- 読解力、計算力や数学的思考力などの基礎的な学力

社会構造の変革

- 人間一人一人の活動に関するデータ（リアルデータ）活用による革新的サービス
- ビッグデータ・人工知能(AI)の発達による新たなビジネスの拡大

雇用環境の変革

- 単純労働を中心に、人工知能(AI)やロボティクスの発展による影響
- 人間は、創造性・協調性が必要な業務や非定形な業務を担う

子供たちの多様化

- 他の子供たちとの学習が困難
- ASD、LDなどの発達障害
- 日本語指導が必要
- 特異な才能を持つ など



多様な子供たちを「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の実現

ICTを基盤とした先端技術や教育ビッグデータの効果的な活用に大きな可能性

〔 ICTを基盤とした先端技術・教育ビッグデータは教師本来の活動を置き換えるものではなく、「子供の力を最大限引き出す」ために支援・強化していくもの 〕

各教科の本質的理解を通じた
基盤となる資質・能力の育成

協働学習・学び合いによる
課題解決・価値創造

日本人としての
社会性・文化的価値観の醸成

学校・教師の役割

巻頭インタビュー・浅野大介（経産省商務・サービスグループサービス政策課長・兼教育産業室長）「『未来の教室』とEdtech研究会が目指すところ（下）」

- 「学校を所管する文科省と，教育産業を所管する経産省は，建設的に互いを批評し合いながら未来を創造できるクリティカル・フレンズでありたいのです。**文科省は近代公教育の蓄積を基盤に考える**と思いますが，**経産省は教育産業起点の教育イノベーションが学校にも広がるという視点**になり，大きな違いがあるかと思います。その中間のどこかにベストの解が見つかるはずです。社会と学校現場の乖離も埋められるはずで
す。…」
- 「経産省の所管する**様々な産業の力を生かしたい**。学習塾等の教育産業もその一つですし，自動車もエネルギーもAIもバイオも農業も宇宙も，現場の最先端の課題を「知の体系」に編集して教育現場に提供できると思います。今の子どもたちが挑戦できる社会課題をたくさん提供したい。」（『月刊高校教育』2018年11月号，学事出版）

Society5.0における学び

AIやICTの活用で、社会全体が
「教室」に

新たな質の学びが生まれる可能性もあるが…



学校制度の枠は希釈化

できる子はどんどんの
伸びる？

公教育も民間教育事業も
フラットな関係に

意欲の沸かない子や
質の高くない学びに
終始する子も



教育市場の拡大

家庭の経済力や文化
資本による格差も

公教育が溶けていく

近年の教育改革における民間教育産業の「躍動」

高大接続改革, ICT, eポートフォリオ

「産業主義」の浸透による教育内容・方法の変質

新学習指導要領

近い将来における「学校教育」の枠組みの「希釈化」

Society5.0, 高校改革

教育の「公の性質」の解体

教育の平等や公正の消滅, 格差の拡大



6. 焦点として的高校改革

教育再生実行会議の再始動 (2018.8)

- 第43回教育再生実行会議 (2018年8月3日) において、新たに検討するテーマが提示され、二つのワーキンググループが始動

【テーマ①】 **技術の進展に応じた教育の革新**について。「**Society5.0**」という新たな時代に対応した学校教育の姿、生涯にわたり求められる能力について、検討

【テーマ②】 **新時代に対応した高等学校改革**について。Society5.0の進展や地方創生の推進、高大接続の進捗等も踏まえつつ、新しい時代に対応した高等学校の在り方について、検討

- ①と②はセット。「テクノロジーを活用しつつ、一人一人の能力・個性等に応じた**公正に個別最適化された教育**」へ。「地域及び**産業界との連携**の在り方」「大学等との連携による発展的学習機会の提供」を課題

中教審の再始動（2019.4）

- 教育再生実行会議の「**第11次提言**」が**出されるより前の段階**で、文科大臣が諮問

Society5.0時代の教育・学校・教師の在り方

- Society5.0時代には、①読解力や情報活用能力、②教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、③対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要
- 教師を支援するツールとして先端技術を活用し、①地理的制約を超えた多様な他者との協働的な学び、②一人一人の能力、適性等に応じた学び、③子供たちの意欲を高めやりたいことを深められる学びを実現
- 子供たちの学びの変化に応じた資質・能力を有する教師、多様性があり、変化にも柔軟に対応できる教師集団
- 「チームとしての学校」の推進

1. 新時代に対応した義務教育の在り方

2. 新時代に対応した高等学校教育の在り方

- 普通科改革など各学科の在り方
- 文系・理系にかかわらず様々な科目を学ぶことや、STEAM教育の推進
- 時代の変化・役割の変化に応じた定時制・通信制課程の在り方
- 地域社会や高等教育機関との協働による教育の在り方

等

3. 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方

4. これからの時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等

教育再生実行会議「第11次提言」(2019.6)

- 「新学習指導要領において充実された**プログラミング**や**データサイエンス**に関する教育、**統計教育**については、**全ての児童生徒に基盤的学力**を習得させる」
- 「初等中等教育段階においては、**STEAM 教育**・・・を推進する」
- 「国は、・・・**人材活用も含め産学連携や地域連携によるSTEAM 教育**の事例の構築や収集、モデルプランの提示や全国展開を行う。また、グローバルな社会課題を題材にした、**産学連携STEAM教育コンテンツのオンライン・ライブラリー**を構築する」
- 「教育現場における先端技術の活用では**民間企業等との連携・協働**が非常に重要であり」

- 「これからの高等学校は、**Society5.0 を生き抜くための力**・・・を育むことが求められています」
- 「全ての高等学校において、**教育理念を明確化**するとともに、教育理念に基づき・・・**生徒受入れに関する方針、教育課程編成・実施に関する方針、修了認定に関する方針**を定めることとする」
- （普通科の）<**類型**の例>
 - ①予測不可能な社会を生き抜くため**自らのキャリアをデザインする力**の育成を重視するもの
 - ②**グローバルに活躍するリーダー**や国内外の課題の解決に向け対応できるリーダーとしての素養の育成を重視するもの
 - ③**サイエンスやテクノロジー**の分野等において飛躍知を発見する**イノベーター**等としての素養の育成を重視するもの
 - ④**地域課題の解決**等を通じて体験と実践を伴った**探究的な学び**を重視するもの



7. 対抗軸をどう議論するか？

私たちが直面している事態

- 2006年の**教育基本法「改正」**以来の教育大改変（＝国家と産業界のための「人づくり革命」）は、いちおうの「集大成」を迎えたと思いきや
- すぐに新たな段階へ＝**公教育の「溶解」**と**教育の市場化**の全面的展開
- 「改革」の策動がターゲットにしているのは、ひと握りの**エリート層**。**ノンエリート**は、巻き添えにされ、格差拡大に喘ぐことになるのかと思いきや
- エリート層の育成も大丈夫なのか？
- 高校は、少し前まで改革の**「周回遅れのランナー」**であったが、いまや大学とともに先陣を切る**「フロントランナー」**へ？

対抗軸はあるか？

事態を正確に見きわめ、危機感の覚醒を

- 例えば、普通科の「類型」を、従来からの「**多様化**」政策の**焼き直し？**などと捉えていては、足元をすくわれる
- Society5.0教育は、**下からの学校間競争**、**予算や補助金配分と連動しながら進む**
- 「類型」の教育理念そのものが、「産業主義」的に編成されていく

「公教育」の価値の再認識、広範な層への周知

- 公教育が**市場化**されると、何が起きるのか——**社会の解体？**
- この局面でこそ、**生徒・保護者・市民との共同**を

「社会への移行」のセーフティ・ネットとしての公教育

- **困難を抱える層**にとっただけでなく
- すべての子ども・若者を**「国家主義」的および「産業主義」的な社会化**から守り、本来の社会的主体、平和で民主的な国家・社会の形成者に育むために

「成長」の収奪に抗する

- Society5.0教育が想定しているのは、**「教科学習 + 探究」**
- 内容の狭さ（産業主義）を克服すると同時に、**課題意識が熟成してくる場**を
- ミネルバ大学は、なぜ**全寮制で7都市を移動しながら学ぶ**のか

学びの「共同性」の価値を再認識・再創造する

- **「個別最適化された学び」**は、学びを標準化し、狭隘化し、平板化する
- せめて、**「個別化された学び + 協働学習」**の組み合わせを

学校での学びと社会とのつながりの回復

- 新学習指導要領の「**社会に開かれた教育課程**」における「社会」を本物にする
- 「**資質・能力**」論の偏りを正すと同時に、「**教育内容・教材**」論を組み合わせる
- 高校の普通科をアップデートする

学習権を実質的に保障する

- 本気で学習権保障を言うのであれば、「**修得主義**」とどう向き合うか？
- 「未来の教室」の偏りを正しつつ、「**学校間**」、「**学校と学校外**」との連携・協働

ご清聴，ありがとうございます
ました

komikawa@hosei.ac.jp

<http://www.facebook.com/koichiro.komikawa>